

I T P 派遣報告



20世紀前半ドイツの知的状況における
アジア的モメント
博士後期課程1年 藁科智恵

1

派遣報告

(2月27日～3月18日)

- インド (2月27日～3月18日)
ジャダプル大学、マイソール大学



国立図書館 (コルカタ)

2

派遣報告

(2月27日～3月18日)

- ◎ ジャダプル大学、シュバー・ダスグプタ教授
20世紀前半のインドにおける西洋の文学、知識人の受容のされ方に関して見ていく上で必要な資料等に関するアドバイス
- ◎ マイソール大学、レカ・シャルマ教授
 - ・ オットーが滞在していた当時のマイソールに関する資料収集に関するアドバイス
 - ・ 関連する分野の専門家へのコンタクト
- ◎ ヴィーヴィカナンダ・インスティテュート、ナガラジャ・ラオ教授
 - ・ オットーが接触していた人々に関する情報の提供およびアドバイス
 - ・ 関連専門分野の研究者へのコンタクト

3

派遣報告

(2月27日～4月26日)

- ◎ ドイツ (3月18日～4月26日)
マールブルク大学



マールブルクの街並

4

派遣報告

(3月18日～4月26日)

- マールブルク大学、エディット・フランケ教授、カティア・トリプレット助教授
- 9月からの滞在にあたって、生活・研究面に関するアドバイス
- 研究テーマに関連して適切な助言を行える研究者の紹介

- スイス・アスコーナ（4月7日～4月14日）
- 資料館（カーザ・アナッタ）において、研究テーマと密接な関連を持つ資料の確認
- 20世紀初頭の時期に当地で実際の生活体験を持つ人物とのコンタクトを確立

5



マールブルク大学Religionskundliche Sammlung

6



スイス・アスコーナCasa Anatta

7

派遣成果

- ◎ 9月以降の研究を進めていく上での詳細かつ具体的な研究計画の見通しが得られた
- ◎ コントクトの確保により、留学前から研究上のアドバイス、指導を受けられるという意味で有益な機会となった
- ◎ 留学へ向けて必要とされる研究上の下準備をより有益に進めていく目途が得られた
- ◎ 9月からの研究環境の整備（宿舎、手続き）を事前に行えた

8

計画

(08年9月～09年2月)

日本出発（8月後半）

ドイツ・マールブルク大学宗教学部（8月後半～12月）

エディット・フランケ教授

スイス・アスコーナにおいて調査（12月）

オランダ・ライデン大学宗教学部（1月～2月）

アーネスティン・ファン・デル・ヴァル教授

日本到着（2月後半）

9



ご清聴有難うございました

10